

2.7 放課後活動への参加頻度

どの程度、放課後活動に取り組んでいるか、その頻度を尋ねた。

「1週間に5日以上」が40.7%、「1週間に2～4日」が36.1%と回答しており、7割強が頻繁に放課後活動に参加していることがわかる。

表 2-7 活動の頻度 (%)

| | | (%) |
|---|------------|------|
| 1 | 1週間に5日以上 | 40.7 |
| 2 | 1週間に2～4 | 36.1 |
| 3 | 1週間に1日 | 5.0 |
| 4 | 1ヶ月に1～3回 | 8.8 |
| 5 | 長期の休みのみ | 0.2 |
| 6 | 特別なイベント時のみ | 7.0 |
| 7 | その他 | 1.2 |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

性差においては、男性は「1週間に5日以上」(66.4%)、女性は「1週間に2～4日」(45.6%)とそれぞれ多くなっており、年齢差では60代以上において「1週間に5日以上」(53.0%)と「1ヶ月に1～3回」(13.9%)が比較的高く、40代以下、50代においては「1週間に2～4日」(各47.7%・45.1%)が高い割合となった。

これは、前述の活動における立場の違いが影響していると考えられる。

表 2-7A 活動の頻度 × 性別 (%)

| | | 男性 | 女性 | *** |
|---|------------|------|------|-----|
| 1 | 1週間に5日以上 | 66.4 | 32.9 | |
| 2 | 1週間に2～4 | 10.7 | 45.6 | |
| 3 | 1週間に1日 | 8.7 | 3.4 | |
| 4 | 1ヶ月に1～3回 | 10.7 | 8.6 | |
| 5 | 長期の休みのみ | 0.0 | 0.2 | |
| 6 | 特別なイベント時のみ | 3.4 | 7.7 | |
| 7 | その他 | 0.0 | 1.6 | |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

表 2-7B 活動の頻度 × 年齢 (%)

| | | ～40代 | 50代 | 60代～ | *** |
|---|------------|------|------|------|-----|
| 1 | 1週間に5日以上 | 29.5 | 40.8 | 53.0 | |
| 2 | 1週間に2～4 | 47.7 | 45.1 | 17.3 | |
| 3 | 1週間に1日 | 3.6 | 3.3 | 7.9 | |
| 4 | 1ヶ月に1～3回 | 6.4 | 7.1 | 13.9 | |
| 5 | 長期の休みのみ | 0.5 | 0.0 | 0.0 | |
| 6 | 特別なイベント時のみ | 10.9 | 3.3 | 6.4 | |
| 7 | その他 | 1.4 | 0.5 | 1.5 | |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

2.8 放課後教室における役割 —男性は事務、女性は子どもを守る—

放課後活動の教室で、どのような役割を担っているのかを複数回答で答えていただいた。上位から、「子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする」(88.4%)、「子どもの健康管理・安全確保」(73.2%)、「子どもの活動の企画・実施」(66.6%)、「子どもの出欠席簿の記録作成」(61.1%)となっている。

やはり、子どもと直接的に関係のある項目が多くを占めており、事務的な項目は上位とはならなかった。

表 2-8 教室における役割 (%)

| 順位 | 役割 | 割合 (%) |
|----|--------------------|--------|
| 1 | 子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする | 88.4 |
| 2 | 子どもの健康管理・安全確保 | 73.2 |
| 3 | 子どもの活動の企画・実施 | 66.6 |
| 4 | 子どもの出欠席簿の記録作成 | 61.1 |
| 5 | 備品等の管理 | 54.5 |
| 6 | 学校や家庭への連絡 | 52.2 |
| 7 | 学習会・研修会への参加 | 50.2 |
| 8 | 子どもの遊び場の提供 | 45.4 |
| 9 | 事業計画の作成 | 42.4 |
| 10 | 地域への対応・行政との連絡 | 41.9 |
| 11 | 連絡帳等の記録作成 | 34.8 |
| 12 | おやつ等の準備提供 | 17.9 |
| 13 | その他 | 6.3 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

性差についてみていくと、男性は「事業計画の作成」(67.8%)、「地域への対応・行政との連絡」(66.4%)、「学習会・研修会への参加」(63.8%)、「学校や家庭への連絡」(65.8%)などの事務的な項目が、女性に比べ割合が高くなっている。一方女性は、「子どもの健康管理・安全確保」(74.8%)や「子どもの出欠席簿の記録作成」(64.3%)が、男性に比べ割合が高い。

これから、男女とも子どもと積極的に遊びながらも、男性は事務的な面を、女性は子どもを守る・管理するという面を担っていることがわかる。

表 2-8A 教室における役割 × 性別 (%)

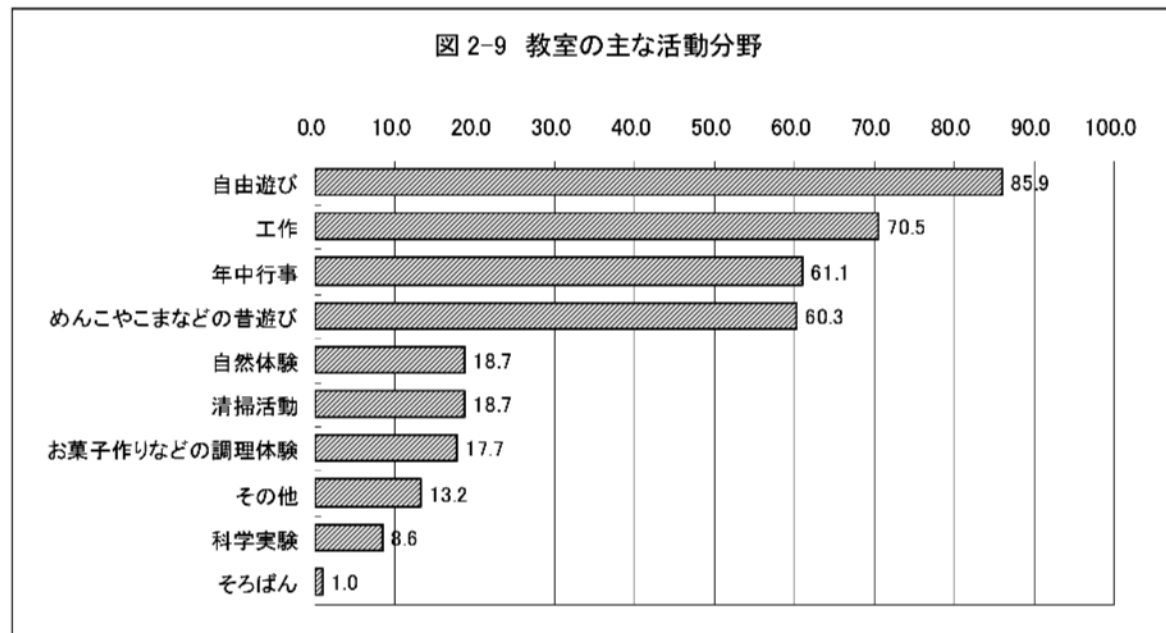
| 順位 | 役割 | 男性 (%) | 女性 (%) | 統計的有意性 |
|----|--------------------|--------|--------|--------|
| 1 | 事業計画の作成 | 67.8 | 34.2 | *** |
| 2 | 地域への対応・行政との連絡 | 66.4 | 33.9 | *** |
| 3 | 学習会・研修会への参加 | 63.8 | 46.0 | *** |
| 4 | 学校や家庭への連絡 | 65.8 | 48.4 | *** |
| 5 | 備品等の管理 | 67.8 | 50.9 | *** |
| 6 | 子どもの遊び場の提供 | 52.3 | 43.3 | ** |
| 7 | 子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする | 93.3 | 87.3 | ** |
| 8 | 子どもの活動の企画・実施 | 66.4 | 66.1 | |
| 9 | その他 | 4.7 | 6.9 | |
| 10 | 連絡帳等の記録作成 | 32.9 | 35.9 | |
| 11 | 子どもの健康管理・安全確保 | 70.5 | 74.8 | |
| 12 | 子どもの出欠席簿の記録作成 | 53.0 | 64.3 | *** |
| 13 | おやつ等の準備提供 | 6.7 | 21.0 | *** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

2.9 放課後教室の主な活動分野 —自由遊び・工作がメイン—

各教室におけるスタッフの役割をみたので、次は子どもたちがどのような活動をしているのか、主な活動について尋ねた。

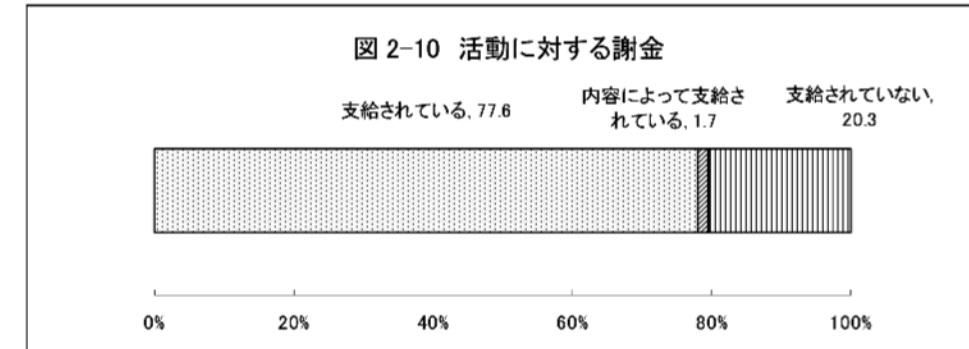
「自由遊び」が 85.9%となっており、ほとんどの教室で「自由遊び」がされていることがわかる。次いで、「工作」が 70.5%、「年中行事」が 61.1%、「めんこやコマなどの昔遊び」が 60.3%となっている。



(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

2.10 活動に対する謝金

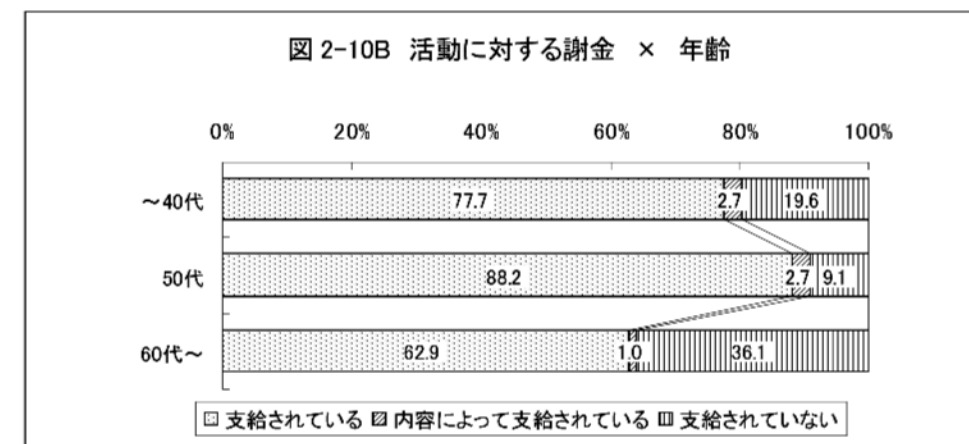
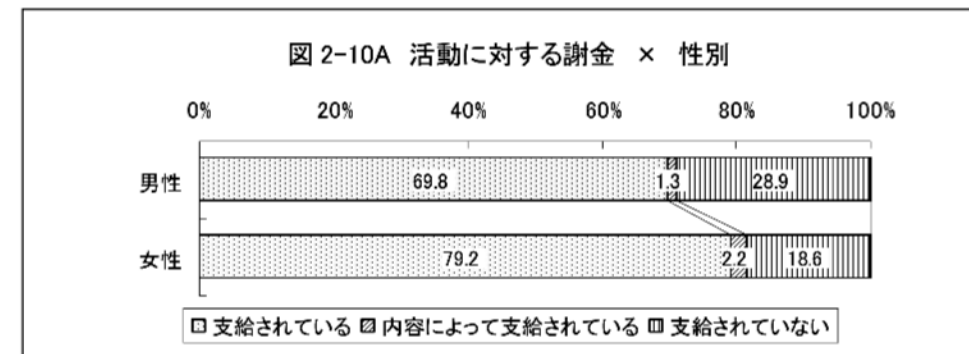
活動をしていて、その謝金などの給与をもらっているかを尋ねた。「支給されている」が 77.6%と最も多く、「支給されていない」は 20.3%にとどまった。これは、前述 2.4 の携わっている放課後活動に影響をうけていると考えられる。江戸川区のすくすくスクールは無償で、横浜市の 2 事業は有償で行っていると、おおまかにいえるだろう。



(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

では、性差や年齢差はあるのだろうか。前述のように、全体における各事業の割合の影響をうけているため、「支給されている」が男女ともに多いが、「支給されていない」(28.9%)においては男性が若干多くなっており、無償ボランティアは男性に多いことが見受けられる。年齢からみると、50代における「支給されている」(88.2%)という回答が比較的多く、60代以上になると、「支給されていない」(36.1%)という回答の割合が大きくなる。

以上から、50代では放課後活動を、職業としての位置づけをしている人が多く、60代以上では同活動をボランティアと捉えている人の割合が、多くなっているということがいえる。



2.11 活動を通しての自身の変化 —女性が変化を感じている—

次は活動を通しての自身の変化についてみていきたい。

6割以上の回答を得ているのが、「保護者と挨拶を交わしたり、かかわりを持ったりするになった」(67.9%)、「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」(65.7%)、「地域において色々な子どもに声をかけたり、交流を持ったりするようになった」(63.9%)、「学校の関係者とかかわりを持つようになった」(60.4%)などである。

表 2-11 活動を通しての自身の変化 (%)

| 順位 | 変化の内容 | 割合 (%) |
|----|--------------------------------------|--------|
| 1 | 保護者と挨拶を交わしたり、かかわりを持ったりするようになった | 67.9 |
| 2 | 地域の子どもに対する意識や関心が高くなった | 65.7 |
| 3 | 地域において色々な子どもに声をかけたり、交流を持ったりするようになった | 63.9 |
| 4 | 学校の関係者とかかわりを持つようになった | 60.4 |
| 5 | 地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった | 51.8 |
| 6 | 子どもの居場所づくりに関する各地の取り組みに対して意識・関心が高くなった | 46.0 |
| 7 | 地域の学校や子どもの集まる施設について意識・関心が高くなった | 34.4 |
| 8 | 地域の様々な問題について地域の人と話し合ったりするようになった | 25.7 |
| 9 | 地域の団体・組織の活動に以前より積極的に参加するようになった | 18.5 |
| 10 | その他 | 2.3 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

性差についてみていくと、男性は「学校の関係者とかかわりを持つようになった」が 63.8%と最も高く、一方女性は「保護者と挨拶を交わしたり、かかわりを持ったりするになった」(71.2%)「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」(70.5%)「地域において色々な子どもに声をかけたり、交流を持ったりするようになった」(71.7%)など、保護者や地域に対しての変化を実感している。総じて、女性のほうがいろいろな場面で、自身の変化を実感しているということが言える。

表 2-11A 活動を通しての自身の変化 × 性別 (%)

| 順位 | 変化の内容 | 男性 (%) | 女性 (%) | 注 |
|----|--------------------------------------|--------|--------|-----|
| 1 | 学校の関係者とかかわりを持つようになった | 63.8 | 59.4 | |
| 2 | 地域の学校や子どもの集まる施設について意識・関心が高くなった | 36.9 | 33.3 | > |
| 3 | 地域の様々な問題について地域の人と話し合ったりするようになった | 26.2 | 24.3 | |
| 4 | 子どもの居場所づくりに関する各地の取り組みに対して意識・関心が高くなった | 45.0 | 45.8 | |
| 5 | その他 | 1.3 | 2.7 | |
| 6 | 地域の団体・組織の活動に以前より積極的に参加するようになった | 17.4 | 19.0 | |
| 7 | 地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった | 49.7 | 51.3 | < |
| 8 | 保護者と挨拶を交わしたり、かかわりを持ったりするようになった | 59.1 | 71.2 | *** |
| 9 | 地域の子どもに対する意識や関心が高くなった | 47.0 | 70.5 | *** |
| 10 | 地域において色々な子どもに声をかけたり、交流を持ったりするようになった | 45.6 | 71.7 | *** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

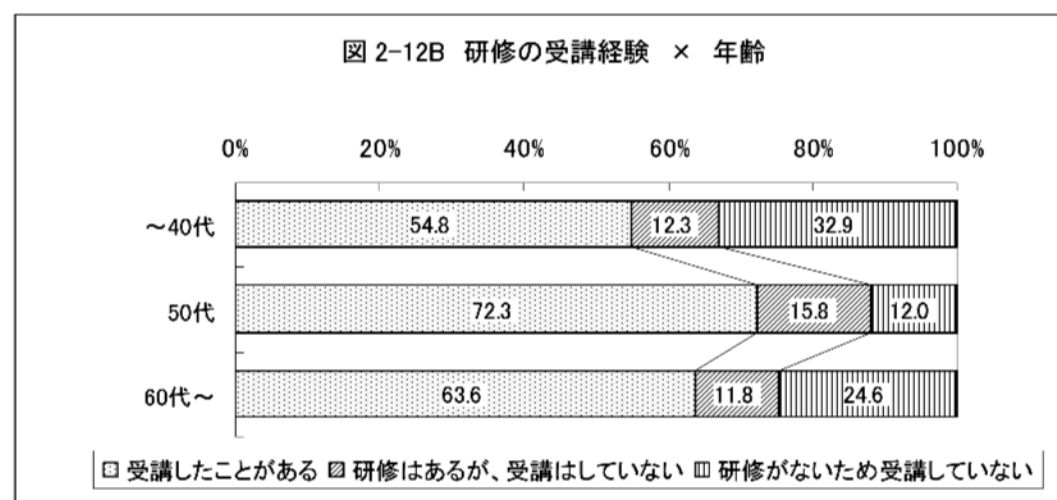
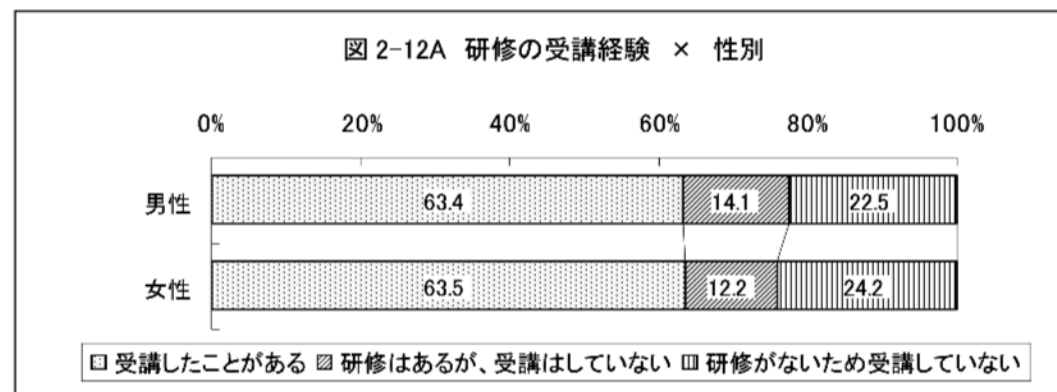
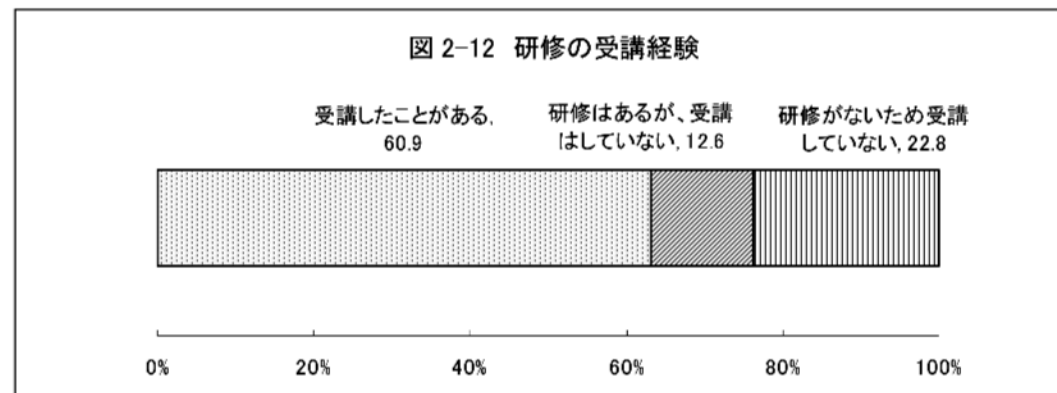
2.12 指導員としての研修の受講経験 —50代が受講している—

ここまでは回答者の属性など、自身の特性についてみてきた。ここからは、どんな考えを持っているのか、そこから具体的な方針を探っていきたい。

まず、研修に関しての質問からみていきたい。回答者の研修の受講経験について尋ねた。

「受講したことがある」と答えたのが60.9%となった。また、「研修はあるが受講はしていない」が12.6%、「研修がないため受講していない」が22.8%、あわせて35.4%の人が受講していないということがわかる。

年齢差をみると、50代が最も受講経験が多く72.3%の回答者が「受講したことがある」と回答している。



(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

2.13 受講して役立った研修 —危機管理と特別支援が役立つ—

前述の2.10で「受講したことがある」と回答した人に対し、役立った研修は何か尋ねた。

上位から、「ケガや事故に対する応急処置や初動対応について」(55.1%)「特別支援に関する知識・技法について」(52.1%)「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」(50.0%)となった。

主に、危機管理や特別支援に関する知識が役立ったと感じているようだ。

表 2-13 役立った研修 (%)

| | | |
|----|------------------------|------|
| 1 | ケガや事故に対する応急処置や初動対応について | 55.1 |
| 2 | 特別支援に関する知識・技法について | 52.1 |
| 3 | 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について | 50.0 |
| 4 | 子どもの発達や子どもの心理について | 46.8 |
| 5 | 放課後子どもプランの取り組み事例の紹介 | 35.0 |
| 6 | 子どもの遊びや体験活動の手法について | 34.8 |
| 7 | 子どもとのコミュニケーションについて | 33.7 |
| 8 | 地域の子どもの子育てを取り巻く現状について | 25.4 |
| 9 | 放課後子どもプランでの連携方策 | 20.9 |
| 10 | 生涯学習や社会教育、児童福祉に関する概論 | 15.5 |
| 11 | 活動プログラムの企画・実施方策について | 14.4 |
| 12 | 育児・保育に関する知識・技法について | 13.1 |
| 13 | パソコンの基本的な操作方法などについて | 12.6 |
| 14 | ボランティアなどの地域人材の確保・連携方策 | 9.1 |
| 15 | 体験活動のフィールドや受入施設等の紹介 | 5.6 |
| 16 | 広報・プレゼンテーションに関する技法について | 4.3 |
| 17 | その他 | 1.1 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

では、性別により役立った研修に差はあるのだろうか。

男性は、「放課後子どもプランの取り組み事例の紹介」が44.7%と、女性の31.0%より高くなっている。また、「地域の子どもや子育てを取り巻く現状について」(34.0%)や「放課後子どもプランでの連携方策」(27.7%)が女性より比較的多いことから、男性は子どもの外にある要因や事例などが役立ったと感じている。

女性は、全体の傾向とほぼ同じく、「ケガや事故に対する応急処置や初動対応について」(60.3%)、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」(53.1%)が比較的多くっており、危機管理に対する意識が大きいといえる。

表 2-13A 役立った研修 × 性別 (%)

| | 男性 | | 女性 | |
|---------------------------|------|---|------|-----|
| 1 放課後子どもプランの取り組み事例の紹介 | 44.7 | > | 31.0 | ** |
| 2 地域の子どもや子育てを取り巻く現状について | 34.0 | | 22.0 | ** |
| 3 放課後子どもプランでの連携方策 | 27.7 | | 18.1 | ** |
| 4 活動プログラムの企画・実施方策について | 17.0 | | 13.7 | |
| 5 パソコンの基本的な操作方法などについて | 14.9 | | 11.9 | |
| 6 生涯学習や社会教育、児童福祉に関する概論 | 16.0 | | 14.8 | |
| 7 子ども遊びや体験活動の手法について | 35.1 | | 34.7 | |
| 8 その他 | 0.0 | < | 1.4 | |
| 9 体験活動のフィールドや受入施設等の紹介 | 4.3 | | 6.1 | |
| 10 ボランティアなどの地域人材の確保・連携方策 | 7.4 | | 9.7 | |
| 11 広報・プレゼンテーションに関する技法について | 1.1 | | 4.7 | * |
| 12 特別支援に関する知識・技法について | 48.9 | | 53.1 | |
| 13 育児・保育に関する知識・技法について | 8.5 | | 14.1 | |
| 14 子どもとのコミュニケーションについて | 29.8 | | 35.4 | |
| 15 子ども安全管理と防犯などの安全対策について | 39.4 | | 53.1 | ** |
| 16 子ども発達や子どもの心理について | 33.0 | | 50.5 | *** |
| 17 ケガや事故に対する応急処置や初動対応について | 36.2 | | 60.3 | *** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

2.14 あれば受講してみたい研修 —男性は運営知識、女性は子ども理解—

あれば受講してみたい研修について、前述の役立った研修と同じ選択肢を用い、回答者全員に対し尋ねた。

上位から、「子どもの発達や子どもの心理について」(41.2%)「子どもとのコミュニケーションについて」(33.8%)「子どもの遊びや体験活動の手法について」(32.5%)となっている。これらは、子どもとの直接の係わり、子ども理解などにあたる項目である。

これから、子ども理解をもっとしたいという指導者・スタッフが多いといえる。しかし、どれも値がおおよそ4割以下であり、受講意欲がそれほど高いとはいえない。

表 2-14 あれば受講してみたい研修 (%)

| | | |
|----|------------------------|------|
| 1 | 子どもの発達や子どもの心理について | 41.2 |
| 2 | 子どもとのコミュニケーションについて | 33.8 |
| 3 | 子どもの遊びや体験活動の手法について | 32.5 |
| 4 | ケガや事故に対する応急処置や初動対応について | 30.3 |
| 5 | 特別支援に関する知識・技法について | 29.8 |
| 6 | 放課後子どもプランの取り組み事例の紹介 | 26.7 |
| 7 | 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について | 25.7 |
| 8 | 地域の子どもや子育てを取り巻く現状について | 23.8 |
| 9 | 活動プログラムの企画・実施方策について | 21.4 |
| 10 | ボランティアなどの地域人材の確保・連携方策 | 20.9 |
| 11 | パソコンの基本的な操作方法などについて | 16.2 |
| 12 | 生涯学習や社会教育、児童福祉に関する概論 | 15.7 |
| 13 | 育児・保育に関する知識・技法について | 12.9 |
| 14 | 体験活動のフィールドや受入施設等の紹介 | 11.8 |
| 15 | 放課後子どもプランでの連携方策 | 10.9 |
| 16 | 広報・プレゼンテーションに関する技法について | 7.1 |
| 17 | その他 | 1.2 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

次に、性差についてみていきたい。

男性は「ボランティアなどの地域人材の確保・連携方策」(32.2%)、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」(32.2%)といった**管理・運営**に関する項目が女性より比較的多い。

女性は、「特別支援に関する知識・技法について」(47.8%)、「子どもの発達や子どもの心理について」(32.8%)といった、子どものバックグラウンドや知識に関する講座を受講したいと考えていることが分かる。

表 2-14A あれば受講してみたい研修 × 性別 (%)

| | 男性 | | 女性 | |
|---------------------------|------|---|------|-----|
| 1 ボランティアなどの地域人材の確保・連携方策 | 32.2 | > | 17.0 | *** |
| 2 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について | 32.2 | | 23.0 | *** |
| 3 放課後子どもプランでの連携方策 | 14.1 | | 10.3 | |
| 4 パソコンの基本的な操作方法などについて | 18.8 | | 15.4 | |
| 5 放課後子どもプランの取り組み事例の紹介 | 28.2 | | 26.3 | |
| 6 子どもとのコミュニケーションについて | 34.2 | | 34.4 | |
| 7 活動プログラムの企画・実施方策について | 20.8 | | 21.2 | |
| 8 広報・プレゼンテーションに関する技法について | 5.4 | | 6.7 | |
| 9 地域の子どもの子育てを取り巻く現状について | 22.8 | | 24.3 | |
| 10 その他 | 0.0 | | 1.6 | |
| 11 ケガや事故に対する応急処置や初動対応について | 28.2 | < | 31.3 | |
| 12 子どもの遊びや体験活動の手法について | 28.9 | | 33.9 | |
| 13 体験活動のフィールドや受入施設等の紹介 | 7.4 | | 13.2 | ** |
| 14 育児・保育に関する知識・技法について | 8.1 | | 14.1 | ** |
| 15 生涯学習や社会教育、児童福祉に関する概論 | 9.4 | | 17.6 | ** |
| 16 特別支援に関する知識・技法について | 22.1 | | 32.8 | *** |
| 17 子どもの発達や子どもの心理について | 23.5 | | 47.8 | *** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

2.15 活動における問題点 —50代が最も悩んでいる—

活動をしていくうえでの問題点について問うた。

全体として、「学校との連携や教員との連絡調整」が多く、31.5%となった。また、「子どもの保護者への参加の呼びかけ」が27.6%となり、どちらも対外的な連絡や調整に対する問題であることが言える。「子どもが参加しやすい企画の立案」(27.8%)も、常に新しい企画を考えなくてはならないスタッフの悩みとも言える。

表 2-15 活動における問題点 (%)

| | | (%) |
|----|---------------------|------|
| 1 | 学校との連携や教員との連絡調整 | 31.5 |
| 2 | 子どもが参加しやすい企画の立案 | 27.8 |
| 3 | 子どもの保護者への参加の呼びかけ | 27.6 |
| 4 | 保護者からの要望等への対応 | 21.9 |
| 5 | 学校行事との調整 | 20.7 |
| 6 | 安全管理員等の確保 | 15.7 |
| 7 | 関係団体との連携や講師の確保 | 9.1 |
| 8 | 指導員相互の連絡調整 | 8.9 |
| 9 | 企画を実施する際の調整 | 8.1 |
| 10 | 安全管理員等の登録・管理・適正な配置 | 7.0 |
| 11 | 市区町村教育委員会等との連絡調整 | 5.6 |
| 12 | その他 | 5.1 |
| 13 | コーディネーターと指導者等との役割分担 | 4.5 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

活動における問題点について、年齢差に注目したい。

特に注目したいのは50代の回答で、「学校との連携や教員との連絡調整」(35.5%)、「学校行事との調整」(35.5%)など、学校に関する項目の値が高い。項目全体を見ても、他年代よりも値の大きい項目が多く、50代が活動上問題と感じている場面が多いことがわかる。

表 2-15A 活動における問題点 × 年齢 (%)

| | | ～40代 | 50代 | 60代～ | |
|----|---------------------|------|------|------|-----|
| 1 | 学校との連携や教員との連絡調整 | 30.7 | 35.5 | 28.7 | |
| 2 | 学校行事との調整 | 30.7 | 35.5 | 28.7 | *** |
| 3 | 子どもの保護者への参加の呼びかけ | 30.2 | 23.1 | 29.7 | *** |
| 4 | 子どもが参加しやすい企画の立案 | 24.0 | 31.7 | 29.7 | |
| 5 | 保護者からの要望等への対応 | 17.3 | 25.8 | 22.8 | |
| 6 | 安全管理員等の確保 | 16.9 | 15.6 | 14.9 | ** |
| 7 | 企画を実施する際の調整 | 8.0 | 11.3 | 5.0 | |
| 8 | その他 | 8.0 | 4.3 | 2.5 | * |
| 9 | 安全管理員等の登録・管理・適正な配置 | 7.1 | 5.4 | 7.9 | |
| 10 | 指導員相互の連絡調整 | 6.2 | 10.2 | 10.4 | |
| 11 | 関係団体との連携や講師の確保 | 4.4 | 9.1 | 14.4 | |
| 12 | コーディネーターと指導者等との役割分担 | 3.1 | 5.4 | 5.0 | |
| 13 | 市区町村教育委員会等との連絡調整 | 1.8 | 8.1 | 7.4 | |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

2.16 行政への要望 —予算の拡充が第一—

質問全体の最後に、活動における要望はないか尋ねた。

最も高いのが「予算の充実」で47.8%となっており、役半数近い回答者が予算の拡充を求めていることがわかる。次いで、「保護者との理解・協力ができるような仕組みづくり」(43.7%)、「指導員・ボランティアの人材の確保」(39.7%)となっている。

表 2-16 行政への要望など (%)

| | | |
|----|-------------------------|------|
| 1 | 予算の充実 | 47.8 |
| 2 | 保護者との理解・協力ができるような仕組みづくり | 43.7 |
| 3 | 指導員・ボランティアの人材の確保 | 39.7 |
| 4 | 子どものニーズに合った実施内容への改良 | 27.9 |
| 5 | 研修の充実と資質向上 | 21.5 |
| 6 | 指導員間の情報交換の場作り | 19.5 |
| 7 | 地域施設の積極的な開放 | 18.0 |
| 8 | コーディネーターとなる人材の確保 | 15.6 |
| 9 | 関係機関や支援団体との連携強化 | 15.1 |
| 10 | 指導者間での連携強化 | 12.7 |
| 11 | その他 | 3.8 |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

性差をみると、先の「予算の充実」とほぼ同じ値を示しているのが、男性では指導員・ボランティアの人材の確保（50.3%）、女性では「指導員・ボランティアの人材の確保」（46.4%）となっている。やはり、この「予算充実」「人材確保」「保護者協力」の3つの項目が要望として大きいことがいえる。

年齢差では、50代が全体に値が高く、先の活動上での問題点と同様に、全年代の中で最も要望が多い年代ということが言えるだろう。

表 2-16A 行政への要望など × 性別 (%)

| | 男性 | 女性 | |
|---------------------------|------|------|-----|
| 1 指導員・ボランティアの人材の確保 | 50.3 | 37.7 | *** |
| 2 関係機関や支援団体との連携強化 | 21.5 | 12.9 | *** |
| 3 その他 | 6.7 | 2.9 | ** |
| 4 予算の充実 | 50.3 | 46.9 | |
| 5 研修の充実と資質向上 | 20.8 | 22.1 | |
| 6 指導者間での連携強化 | 10.7 | 13.4 | |
| 7 コーディネーターとなる人材の確保 | 13.4 | 16.5 | |
| 8 地域施設の積極的な開放 | 16.1 | 19.4 | |
| 9 子どものニーズに合った実施内容への改良 | 24.2 | 29.3 | |
| 10 指導員間の情報交換の場作り | 14.8 | 21.7 | ** |
| 11 保護者との理解・協力ができそうな仕組みづくり | 35.6 | 46.4 | ** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

表 2-16B 行政への要望など × 年齢 (%)

| | ～40代 | 50代 | 60代～ | |
|--------------------------|------|------|------|-----|
| 1 予算の充実 | 48.4 | 51.6 | 42.1 | |
| 2 保護者との理解・協力ができそうな仕組みづくり | 45.3 | 51.1 | 35.6 | *** |
| 3 指導員・ボランティアの人材の確保 | 36.0 | 38.7 | 45.0 | |
| 4 子どものニーズに合った実施内容への改良 | 23.6 | 37.1 | 23.9 | *** |
| 5 研修の充実と資質向上 | 18.2 | 27.4 | 19.3 | * |
| 6 指導員間の情報交換の場作り | 17.8 | 21.5 | 20.3 | |
| 7 コーディネーターとなる人材の確保 | 17.8 | 15.1 | 13.4 | |
| 8 地域施設の積極的な開放 | 16.9 | 15.6 | 22.3 | |
| 9 指導者間での連携強化 | 10.7 | 16.7 | 10.4 | |
| 10 関係機関や支援団体との連携強化 | 10.7 | 18.3 | 16.3 | * |
| 11 その他 | 6.2 | 1.6 | 3.0 | ** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

3. 給与タイプからみた意識・実態の違い

これまで、回答者の経験などの特性を、単純集計・性差・年齢差でみてきた。ここで、違う視点を持ってみる。

給与の有無、また、固定給や時給・日当による違いで、意識や実態にどのような差が見えてくるのだろうか。比較分析をし、今後、当事業を有償化すべきか否かを提言していきたい。

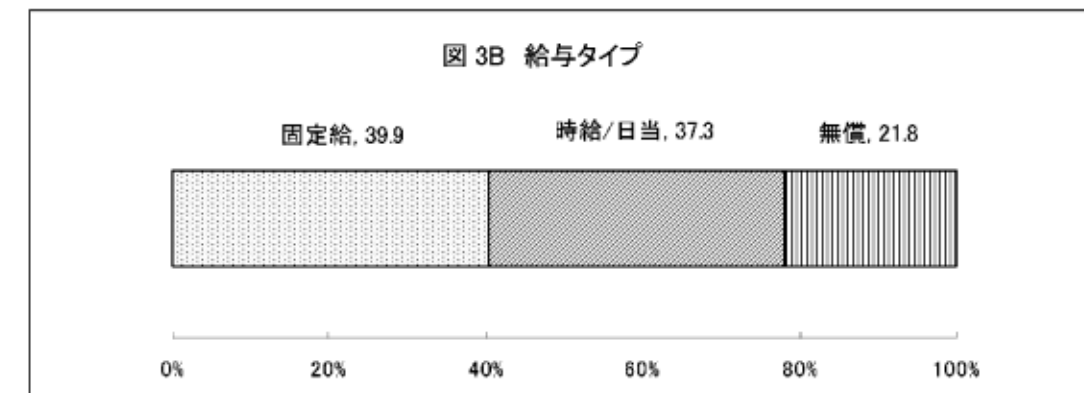
まず、回答者の給与タイプを以下の表 3A のように、教室における現在の立場によって3つに分類した。表 3B は、給与タイプの回答者全体におけるパーセンテージである。「固定給」が 39.9%、「時給/日当」が 37.3%、「無償」が 21.8%となった。

表 3A 給与タイプ分類

| | 分類名 |
|---------------|-------|
| 1 クラブマネージャー | 時給/日当 |
| 2 サブマネージャー | 時給/日当 |
| 3 プレイングパートナー | 時給/日当 |
| 4 サポーター | 無償 |
| 5 チーフパートナー | 固定給 |
| 6 アシスタントパートナー | 時給/日当 |
| 7 主任常勤指導員 | 固定給 |
| 8 常勤指導員 | 固定給 |
| 9 補助指導員 | 時給/日当 |
| 10 無償ボランティア | 無償 |

表 3B 給与タイプ (%)

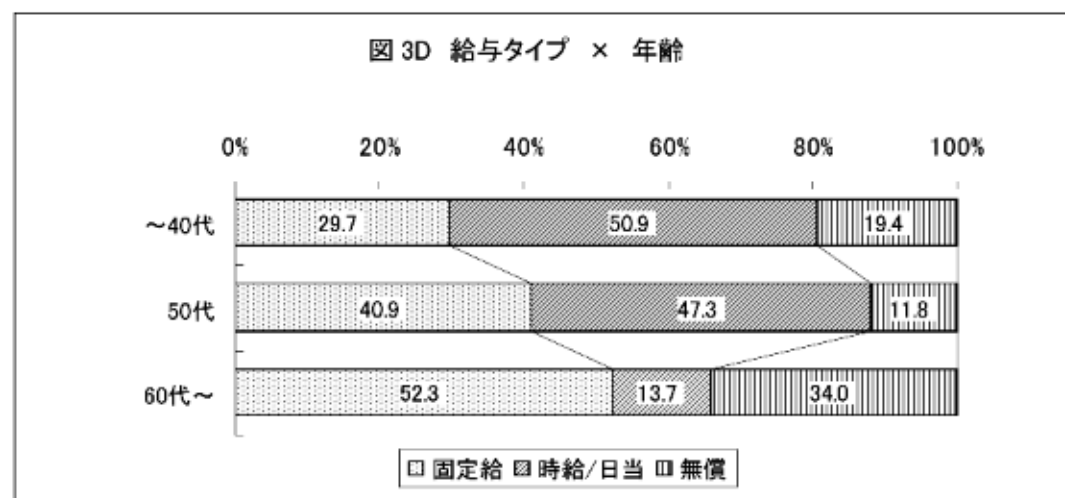
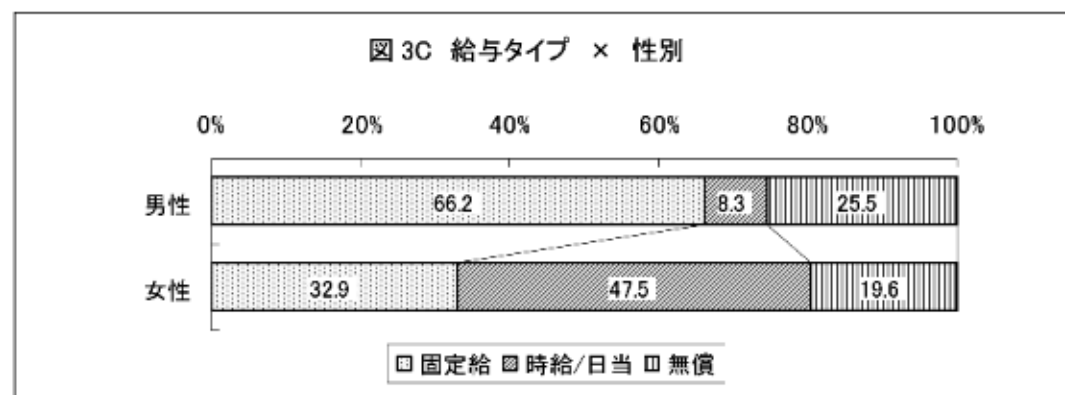
| | |
|---------|------|
| 1 固定給 | 39.9 |
| 2 時給/日当 | 37.3 |
| 3 無償 | 21.8 |



以下、図 3C および図 3D はそれぞれ、給与タイプと性別・年齢のクロスをとったものであるの
で参照していただきたい。

性別とのクロスでは、男性の「固定給」が 66.2%と多く、女性の「固定給」の 32.9%とほぼ 2
倍となっている。逆に、女性の「時給/日当」は 47.5%で、男性の 8.3%よりかなり多い。

年齢とのクロスでは、年齢が上がるにつれて「固定給」が増加しているが、一方で「無償」が
60代以上において多い(34.0%)ことがわかる。これは、60代以上では管理職となるチーフパート
ナーと、無償ボランティアの人が多くいることを意味している。



3.1 給与タイプからみる参加経験のあるボランティアの違い

ここから、回答者の特性や背景など、給与タイプの違いに焦点をあてて分析していく。まず、
ボランティアの参加経験の違いはみられるのだろうか、表 3-1 をご覧いただきたい。

固定給タイプでは、「自治会の役員」(54.5%)が他タイプより多いことから、地域でリーダーシ
ップを取れるということ、「学校での授業支援」(35.4%)、「学校での部活動の指導」(14.2%)、「少
年野球やサッカーなどのコーチ」(11.4%)からは、子どもへの指導ができる人物が比較的多いとい
うことが考えられる。

一方、時給/日当タイプでは、「PTA役員・委員」(89.5%)、「地域の子どもの世話役」(66.7%)、
「防犯パトロール(子どもの登下校時の安全確保も含む)」(49.6%)などが他タイプより多く、子
どものために活動をするという人物が多いことが考えられる。また、「全くしたことがない」とい
うのが 2.6%と最も低く、比較的ボランティアの参加経験がある人が多いといえる。

無償タイプの人には、「地域美化ボランティア」(20.9%)や、「読み聞かせのボランティア」(22.0%)
が他タイプより多く、趣味や一般的なボランティアへの参加経験がある人が多いことがわかる。

表 3-1 参加経験のあるボランティア × 給与タイプ (%)

| | 固定給 (%) | 時給/日当 (%) | 無償 (%) | |
|-----------------------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 1 自治会の役員 | <u>54.5</u> | 53.5 | 34.3 | *** |
| 2 PTA役員・委員 | 54.1 | <u>89.5</u> | 52.2 | *** |
| 3 地域の子どもの世話役 | 50.0 | <u>66.7</u> | 24.6 | *** |
| 4 防犯パトロール(子どもの登下校時の安全確保も含む) | 36.6 | <u>49.6</u> | 43.3 | ** |
| 5 学校での授業支援 | <u>35.4</u> | 26.3 | 20.1 | *** |
| 6 福祉ボランティア | 18.7 | 15.4 | 11.2 | |
| 7 地域美化ボランティア | 16.7 | 15.4 | <u>20.9</u> | |
| 8 学校での部活動の指導 | <u>14.2</u> | 5.3 | 5.2 | *** |
| 9 読み聞かせのボランティア | 12.2 | 18.0 | <u>22.0</u> | ** |
| 10 少年野球やサッカーなどのコーチ | <u>11.4</u> | 3.1 | 3.0 | *** |
| 11 民生児童厚生員 | 10.2 | 6.6 | 9.0 | |
| 12 全くしたことがない | 10.2 | <u>2.6</u> | <u>11.9</u> | *** |
| 13 公民館や生涯学習センターでのボランティア | 8.5 | 4.4 | 2.2 | ** |
| 14 その他 | 8.1 | 7.0 | 8.2 | |
| 15 災害派遣ボランティア | 4.5 | 0.0 | 1.5 | *** |
| 16 消防団 | 3.3 | 3.1 | 0.7 | |
| 17 図書館や美術館でのボランティア | 3.3 | 1.3 | 6.7 | ** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

3.2 給与タイプからみるボランティアの参加頻度・期間の違い

先に質問した、参加したことのあるボランティアの参加の頻度や期間について、給与タイプによる差をみていきたい。参加したことのあるボランティアのうちの、もっとも熱心に取り組んだもの1つに絞ってこたえていただいた。

固定給タイプは、他タイプより「1週間に1日以上」(3.8%)や「1週間に2～4日」(29.6%)が多く、また、「5年以上」(42.2%)参加していた人が多い。これから、日数的に積極的な参加をしてきたことがわかる。

時給/日当タイプでは、「1ヶ月に1～3回」という参加頻度が52.1%と最も多く、参加期間も「1年～5年ほど」が54.4%と最も多い。負担にならない程度の参加の仕方をしてきたということがわかる。また、生涯を通してボランティアをするというような参加ではない。

無償タイプは、「1週間に1回」というペースでの参加が他より多く、「5年以上」の参加が45.6%と最も多い。長年、少しずつ続けるという人が多いと言える。

表 3-2A 参加頻度 × 給与タイプ (%)

| | | 固定給 | 時給/日当 | 無償 | *** |
|---|------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 1 | 1週間に5日以上 | <u>3.8</u> | 2.8 | 1.7 | |
| 2 | 1週間に2～4日 | <u>29.6</u> | 20.7 | 22.0 | |
| 3 | 1週間に1日 | 16.9 | 16.4 | <u>24.6</u> | |
| 4 | 1ヶ月に1～3回 | 34.3 | <u>52.1</u> | 35.6 | |
| 5 | 長期の休みのみ | 2.3 | 0.9 | 0.0 | |
| 6 | 特別なイベント時のみ | 13.1 | 7.0 | 16.1 | |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

表 3-2B 参加期間 × 給与タイプ (%)

| | | 固定給 | 時給/日当 | 無償 | ** |
|---|----------|-------------|-------------|-------------|----|
| 1 | 単発・1週間以内 | 3.7 | 0.9 | 2.6 | |
| 2 | 1ヶ月ほど | 0.5 | 0.9 | 0.0 | |
| 3 | 2ヶ月～半年ほど | 1.4 | 0.0 | 0.9 | |
| 4 | 半年～1年ほど | 11.5 | 14.7 | 12.3 | |
| 5 | 1年～5年ほど | 40.8 | <u>54.4</u> | 38.6 | |
| 6 | 5年以上 | <u>42.2</u> | 29.0 | <u>45.6</u> | |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

3.3 給与タイプからみるボランティアへの参加理由の違い

次は、先に質問した参加したことのあるボランティアへの参加の理由について、給与タイプによる差をみていきたい。

固定給タイプは、「自分の経験が必要とされていたから。」(33.0%)、「自分の職場での経験や能力が生かせるから。」(20.4%)が比較的多い。自分の経験を活かす機会としてボランティアを捉え、使命感・積極性がある人が多いといえる。

時給/日当タイプは、「活動内容が楽しそうだったから。」(31.5%)が多いことから、難しいことはあまり好きではない人が多いことが伺える。また、「子どもや孫のためになるから。」(55.0%)、「必要に迫られたから。」(27.0%)、「自治会などで持ち回り(義務)だから。」(26.1%)が比較的多いことから、誰かのために参加する・自分のためではない参加が多いといえる。

無償タイプは、「地域に貢献したいから。」が41.5%と高く、地域社会への意識が強いタイプといえる。また、「人生において生きがいになりそうだから。」(35.6%)や、「自分の趣味が生かせるから。」(22.0%)といった、自分のための参加が多いことも特徴である。

表 3-3 参加した理由 (%)

| | | 固定給 | 時給/日当 | 無償 | |
|----|----------------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 1 | 子どもや孫のためになるから。 | 40.7 | <u>55.0</u> | 47.5 | ** |
| 2 | 地域に貢献したいから。 | 38.9 | 31.5 | <u>41.5</u> | |
| 3 | 自分の経験が必要とされていたから。 | <u>33.0</u> | 21.6 | 22.9 | ** |
| 4 | 活動内容が楽しそうだったから。 | 26.7 | <u>31.5</u> | 26.3 | |
| 5 | 地域の方が取り組んでいるから。 | 21.3 | 20.3 | 18.6 | |
| 6 | 自分の職場での経験や能力が生かせるから。 | <u>20.4</u> | 7.2 | 5.1 | *** |
| 7 | 必要に迫られたから。 | 19.9 | <u>27.0</u> | 16.9 | * |
| 8 | 人生において生きがいになりそうだから。 | 19.0 | 14.0 | <u>35.6</u> | *** |
| 9 | 自治会などで持ち回り(義務)だから。 | 18.6 | <u>26.1</u> | 8.5 | *** |
| 10 | 自分の趣味が生かせるから。 | 16.3 | 13.5 | <u>22.0</u> | |
| 11 | 家族が取り組んでいるから。 | 6.3 | 5.9 | 4.2 | |
| 12 | その他 | 6.3 | 1.4 | 5.9 | * |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)

3.4 給与タイプからみる教室での活動頻度の違い

ここからは、実際の放課後子ども教室における実態に焦点をあて、給与タイプによる比較をしていきたい。

まず、教室での活動に参加する頻度と、給与タイプとの関係を見ていきたい。

固定給タイプでは「1週間に5日以上」が99.6%と最も多く、ほとんどが平日は出勤していることがわかる。

時給/日当タイプでは、「1週間に2~4日」が91.6%と最も多い。

無償タイプはばらつきがあり、最も多いのが「1ヶ月に1~3回」という回答が36.8%と最も多かった。

表 3-4 活動の頻度 × 給与タイプ (%)

| | | 固定給 | 時給/日当 | 無償 | *** |
|---|------------|-------------|-------------|------|-----|
| 1 | 1週間に5日以上 | <u>99.6</u> | 2.2 | 0.8 | |
| 2 | 1週間に2~4日 | 0.4 | <u>91.6</u> | 12.0 | |
| 3 | 1週間に1日 | 0.0 | 3.6 | 14.3 | |
| 4 | 1ヶ月に1~3回 | 0.0 | 2.2 | 36.8 | |
| 5 | 長期の休みのみ | 0.0 | 0.0 | 0.8 | |
| 6 | 特別なイベント時のみ | 0.0 | 0.0 | 30.8 | |
| 7 | その他 | 0.0 | 0.4 | 4.5 | |

(単一回答：あてはまる項目に○をつける)

3.5 給与タイプからみる教室における役割の違い

まず、教室における役割についての違いをみていく。表 3-5 をご覧いただきたい。便宜的に、値が5割以上のものを太字にしてある。

固定給タイプについてみると、ほぼ全ての役割を担っていることがわかる。給与をいただいている分、子どもと遊ぶことから教室の運営までをきちんとこなしている。

時給/日当タイプは、「子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする」(95.6%)という役割を中心としながら、「子どもの健康管理・安全確保」(86.8%)、「子どもの活動の企画・実施」(57.9%)、「子どもの出欠席簿の記録作成」(74.1%)といった、簡単にできる事務や企画などを行っている。

無償タイプは、「子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする」(63.4%)のみが過半数となっており、事務などは役割として持っていないことが分かる。

表 3-5 教室における役割 × 給与タイプ (%)

| | | 固定給 | 時給/日当 | 無償 | *** |
|----|--------------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 1 | 学校や家庭への連絡 | <u>98.0</u> | 33.3 | 2.2 | *** |
| 2 | 子どもの健康管理・安全確保 | <u>97.6</u> | <u>86.8</u> | 7.5 | *** |
| 3 | 備品等の管理 | <u>97.6</u> | 38.6 | 3.0 | *** |
| 4 | 事業計画の作成 | <u>96.7</u> | 4.8 | 4.5 | *** |
| 5 | 子どもと一緒に遊ぶ・活動の指導をする | <u>96.3</u> | <u>95.6</u> | <u>63.4</u> | *** |
| 6 | 子どもの活動の企画・実施 | <u>93.5</u> | <u>57.9</u> | 29.9 | *** |
| 7 | 学習会・研修会への参加 | <u>92.7</u> | 27.2 | 9.7 | *** |
| 8 | 地域への対応・行政との連絡 | <u>92.7</u> | 3.5 | 11.2 | *** |
| 9 | 子どもの出欠席簿の記録作成 | <u>80.9</u> | <u>74.1</u> | 3.7 | *** |
| 10 | 子どもの遊び場の提供 | <u>71.1</u> | 41.2 | 6.7 | *** |
| 11 | 連絡帳等の記録作成 | <u>58.5</u> | 29.4 | 0.7 | *** |
| 12 | おやつ等の準備提供 | 26.8 | 16.7 | 2.2 | *** |
| 13 | その他 | 8.9 | 0.9 | 10.4 | *** |

(複数回答：あてはまる項目に○をつける)